

ご支援の御礼

このたびは、当法人の活動をご理解いただき、また過分なるご支援を賜り心から感謝申し上げます。おかげさまで、多くの方々にご理解とご賛同をいただき、深く感謝いたしております。今後も子どもたちが、夢を持ち人生を歩むことができるよう活動を続けて参ります。

今後とも、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご賛助いただきました皆様には、随時当法人の活動のご報告やノベルティの作成などを進めさせていただきます。



たくさんの支援物資をいただき、ありがとうございました。ばるーんでの生活や退所後の子どもの生活で使わせていただきます。

42名

いままでの 入所者数

※令和3年4月1日開所～
令和6年11月30日時点

ご支援のお願い



24時間365日対応での子どもたちの生活や運営のための経費は、公的費用だけでは足りないため、皆様のご支援で支えられています。ぜひとも支援の輪につながっていただき、私たちの活動を支えてください。温かいご支援のほど、よろしく願いいたします。

A 会員になる(賛助会員)

継続的にご支援いただくとともに、ばるーんからの報告やイベントのご案内などをさせていただきます。専用の払込用紙をご利用いただけますと、会員登録できます。

個人 年会費 1口 3,000円
団体 年会費 1口 10,000円

B 寄付をする(寄付金・物資)

金額にかかわらず大歓迎です。お寄せいただいたご寄付は子どもたちのために大切に使用させていただきます。遺産を子どもたちのために役立てたいとお考えの方や、ご自身の財産について遺言書を作成することで公的な団体にご寄付をお考えの方は、当団体へのご寄付も候補の一つとして是非ご検討ください。

佐賀銀行 本店営業部(店番500)
口座番号 普通預金口座 3206337
口座名義 特定非営利活動法人 佐賀子ども支援の輪

ゆうちょ銀行 一七九(イチナナキュウ)店
口座番号 当座口座 0152662
口座名義 特定非営利活動法人 佐賀子ども支援の輪

また、物品(※原則として未使用のもの)の寄付もお願いしています。食料品、日用品、消耗品、衣類、家具、家電等、ばるーんでの生活や退所後の子どもの生活で使わせていただきます。

佐賀子どもシェルター ばるーんより活動のご報告

[2025.1]

ばるーん

Newsletter
VOL.05



子ども支援の輪

「子ども支援」という言葉は、いつごろからでてきたのでしょうか。子育て支援は、聞いたことがあるだろうと思いますが、子ども支援という言葉は、聞きなれない言葉なのです。

子育て支援は、1990年の「1.57ショック」以後登場し、日本の少子化を食い止めるために様々な手立てが講じられてきました。晩婚化や共働き家庭の増加、家族構成の変化といった社会の変化を背景に、1990年代から厚生省を中心として「エンゼルプラン」が着手され、次世代育成支援対策法、少子化社会対策大綱、子ども・子育て支援法へと引き継がれていきます。子育てしやすい社会の形成や不妊治療の促進などが柱となっていきます。

他方、子ども支援は、子ども・若者支援の文脈で登場してきたものです。1990年代にフリーター、2000年代に

入ってニートという言葉が登場し、社会的な反響を引き起こしました。いわゆる若年無業者問題です。最初は、「パラサイトシングル」と呼ばれたりしていたため、若者の側に問題があるといった受け止め方も少なくありませんでした。格差社会の本格的な到来によって、家庭・子どもの貧困化が進み、社会の側の問題だと理解されるようになりました。政策的な柱は、サポートステーションのような若者の就労支援策になります。

子ども支援は、どちらかというと後者の文脈になりますが、前者の子育て支援と間違われることも多く、また就労しない若者問題とも混同されることも少なくありません。子ども支援は両者の隙間にあって、その理解はまだ広がっていないように思います。

子育て支援は、子育てする側に焦点

があたりますが、子ども支援は、直接子どもを対象にした取り組みになります。その意味では、子どもが主人公なのですが、主人公の子どもは、様々な困難を抱えた存在です。困難が原因で、自分の人生の主人公として生きることができないのです。困難を抱えるがゆえに、家庭や学校、社会に居場所をみつけられず、大人たちに頼ることができません。子ども支援の輪は、子どもたちに安心できる居場所をつくることと同時に、支援の隙間にいる子どもたちに、セーフティネットの輪を広げていく取り組みだと言えます。

西九州大学
理事
上野 景三



特定非営利活動法人 佐賀子ども支援の輪

事務局(下津浦法律事務所内)

〒842-0002
佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里2100-36

TEL 0952-37-5963 [受付時間] 平日9時～17時

佐賀子どもシェルター

検索



本冊子は、赤い羽根福祉基金 特別プログラム「被害者やその家族等への支援活動助成」事業を受けて作成しました。

2つの ボランティア活動

協力ボランティア活動に参加して

（協力ボランティアは、入所者の社会体験の一つとして、社会復帰を目的とした就労体験の受け入れに協力していただく活動です。）

私は、29年間勤めた公務員を昨年3月に早期退職して、農家に転身。農薬や化学肥料を使わず年間100品種程を作付、個人向けにセット販売をしています。これだけの数の野菜を栽培するとなると常に人手不足で、例えば初冬の時期は、大根や蕪などの収穫をしつつ、夏野菜の撤去作業を進め、同時に春野菜のスナップエンドウやそら豆の種播きや玉ねぎの植え付けなど、複数の作業を同時進行していく必要があります。

いざボランティア受け入れの直前になり、私は色々と考え始めました。入所している子ども達は、様々な事情を抱えて心に傷を負った子も居たり、大人に対する不信感を持つ子もいるだろうと思いました。そんな

子に「私はどのように接すればいいのか?」と。最終的に、「普段通りの人と接する時と同じに接しよう」という答えに行きつき、就労体験に来てくれたMさんには収穫作業と梱包作業をスタッフの方と一緒に手伝ってもらいました。

Mさんは、もともと手先が器用な子で、作業の習得が速く、実際の戦力として働いてくれている感覚でした。Mさんも作業に慣れるにつれ心を開いてくれて、ほんの数回の受け入れでしたが、最後は和気あいあいと一緒に作業をするようになりました。私としては、毎日一人で黙々と作業するところを、会話などを楽しみながら作業ができて、おまけに仕事もさばけて良いことばかりでした。

Mさんにとっては、作業効率を考えたり、楽しみながら仕事をするこの大切さなどを、感じ取ってもらえたと思っています。

「ばるーん」の特性として、長期間に渡って一人の子を保護するような施設ではないため、入所期間中の短期の就労体験にはなるものの、就労体験の場を提供できたことは私にとっても良い経験になりました。これからも色々な形で貢献していければと考えています。



マッセリア
キタムラ
代表
北村 弘

一般ボランティア活動に参加して

（一般ボランティアは広報活動(街頭活動)、レクリエーション活動(野外活動等)への参加、シェルター外で入所者と交流する活動です。）

私は精神科の利用者の自助グループ「かちPICA」代表で、児童虐待被害サバイバーのグループ「しょうりゅうのつどい」のお手伝いをしており、「被害者支援ネットワーク佐賀VOISS」の会員でもあります。活動の中で「ばるーん」の存在を知り、少しですがお手伝いをしています。

イオン大和での黄色いレシートキャンペーンで声をかけていくと、多くのお客様がこころよく応じてくださり、多くのレシートが集まりました。「困っている子どものためのシェルターの活動です」と告げると、深く感心される方が多いのが印象的で、この活動も子どもたちを救うための広報活動と思っています。

これまでに、佐賀県子ども・若者支援者養成研修や、犯罪被害者支援のサポーター研修などで「ばるーん」のお話を聞く機会がありました。大変な目に遭ってきた子どもたちのためのシェルター設立の経緯や、支援の際の実際の子どもの様子を拝聴しました。保護されている子どもは、自分のペースで話を聞いてほしいし、アタッチメント不足から人を試していく行動をよくすると聞き、それは孤立した障害者や各種の被害者でも本当によくあることだと経験してきました。

精神医療利用者や、成人した虐待サバイバー、DVや犯罪被害者の方たちと通じる当事者の社会的孤立や各

種の症状の困難さと同時に、理解ある温かい支援によって、生きるのも難しくなった当事者が大きく人生を向上できることなど、たくさん共通することがあると感じています。

白山のアーケードでは「ばるーん」ボランティアの皆さんが、寒い中でも多くの方たちに明るく声をかけられていたのも心が温かくなりました。今後もお手伝いをしていきたいと思っています。



かちPICA
代表
宮田 慶彦

子どもシェルターでは、様々なボランティアの方々が運営に協力してくださっています。今回は、2つのボランティア活動の内容をお伝えいたします。

活動報告

- ◆「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加
- ◆ボランティア養成講座
差別のない社会の理解を促進することが目的です。
- ◆市民活動プラザフェスタにてマルシェ出店
入所した子どもが手作りしたアクセサリーや雑貨などを販売。



ボランティア養成講座



マルシェに出店して販売

講演・講話

- ◆令和6年9月 4日 小城市社会福祉協議会 / 理事長「子どもたちの現状～シェルターの意義と活動～」
- ◆令和6年9月17日 国際ソロプチミスト唐津 / 施設長「被虐待児童の現状について」
- ◆令和6年10月4日 被害者支援ネットワーク佐賀VOISS / 理事長「未成年への保護・被害者支援について」

団体様からご支援



株式会社フォレスト
ホールディングス様



トヨタ紡織九州株式会社様

コストコホールセール
ジャパン 株式会社様

発明家古賀常次郎様

一般財団法人
サウンドハウスこどもの
みらい財団様他

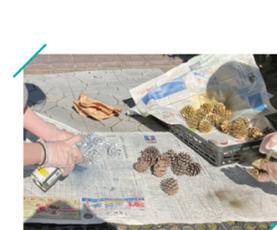
団体様より子どもシェルター「ばるーん」へ様々なご支援をいただきました。心から感謝申し上げます。

シェルターでの活動

入所した子どもはストレスにより精神が不安定になりやすいです。そこで、スポーツ活動や季節のイベントを通して精神の安定化を図っています。また、職員とレクリエーションを共に過ごすことで子どもとの関係が深まり、信頼へと繋がっています。

レクリエーション内容

- 軽スポーツ(バスケットボール、バレーボール、バドミントン)
- 映画鑑賞 ●BBQ ●岩盤浴 ●マルシェ
- 宇宙科学館見学、プラネタリウム見学
- アトラクション体験 ●ハイキング
- お花見 ●神社参拝 ●料理やお菓子作り
- ネイルや工作 など



「クリスマスに向けて飾りを
作りました」



「りんご狩りをしてアップルパイ
を調理しました」



「犬カフェで可愛い犬に
とても癒されました」



「夢になって色々な編み
物を作りました」